



# 学内広報

No.1323

2005.11.9  
東京大学広報委員会



野口宇宙飛行士凱旋（2ページに関連記事）

## CONTENTS

### 特別記事

野口聡一宇宙飛行士、東大に凱旋！ ..... 2

一般ニュース ..... 4

「業務改善提案」に係る表彰式開催

キャンパスニュース ..... 5

第29回東京大学伊豆・戸田マラソン大会が開催される、ハンドボール部関東リーグ2部昇格

部局ニュース ..... 6

大学院法学政治学研究科修士課程入学試験結果、医学部解剖体慰霊祭が行われる、工学系研究科と情報理工学系研究科合同による新規留学生懇談会が行われる、第2回東大水フォーラム開催 水研究のなかま集う、三鷹国際学生宿舎で秋季入居留学生歓迎会行われる、

谷垣禎一財務大臣が公共政策セミナーで講演、生産技術研究所で平成17年度外国人研究者・留学生との懇談会開催

掲示板 ..... 11

イェール大学リチャード・レビン学長特別講演開催、シンポジウム「第二次地方分権改革への展望」、教養学部で第106回オルガン演奏会開催、「教養学部報」第487（11月2日）号の発行—教員による、学生のための学内新聞—、教育測定・カリキュラム開発（ベネッセコーポレーション）講座公開講演会

事務連絡 人事異動（教員） ..... 13

EVENT INFO ..... 15

淡青評論 「それなりに役に立つ」か「日本の恥」か… 16

コラム

コミュニケーションセンターだよりNo.7 ..... 10

Flags運動部紹介No.3 ..... 14

# 野口聡一宇宙飛行士、東大に凱旋!

10月26日(水)、航空宇宙工学専攻OBの野口聡一宇宙飛行士が本学に凱旋しました。本学から誕生した2人目のアストロノーツ、野口さん。久々に見せてくれた彼の元気な姿と凱旋イベントの内容をここにご報告します。



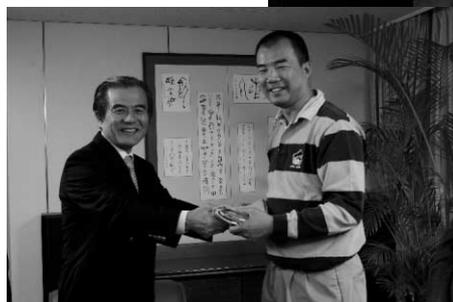
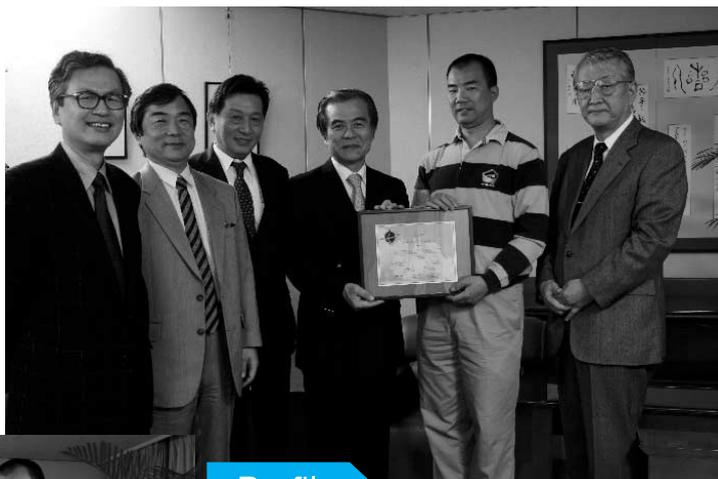
## 野口宇宙飛行士のあいさつ

皆さん、こんにちは! 宇宙飛行士の野口聡一です。今日は久しぶりにキャンパスに帰って来られてうれしいです。学生の皆さんのエネルギーをひしひしと感じて、ちょっとあせってますけれど(笑)。久しぶりにこのキャンパスを歩いて「とても美しい大学だな」とあらためて思いました。毎日、キャンパスを見ている人たちはそう思わないだろうけれど、皆さんは良い環境で学生生活を送れて、とても恵まれていると思いますね。おかげさまで、15日間の宇宙の旅を終えて、ここに帰ってくることができ、うれしく思っています。先ほど、私と一緒に地球の周りを回っていた大学応援旗を総長に無事、お返ししました。この旗をいろいろなイベントに活かしていただいて、ぜひ、東大の名が、世界だけではなくて宇宙に届くように、皆さんも頑張ってください。

今日は本当にどうもありがとう!

## 旗にサインする直前のことば

この応援旗はNASAの公式の飛行記念品として持って行きました。さっそく、サインさせていただきます。今回、私がお持ちした旗と土井飛行士の旗とで、東大の飛行記念品は2点となりました。この後、山崎飛行士も宇宙に行って、何らかのモノを持って帰ってくるとは思いますけれど、4人目はこの中から出ることを期待しています!



小宮山総長と野口さんが持っている額は「この旗は宇宙に持っていった物である」というNASAの証明書(写真右上)

## Profile

### 野口聡一 (のぐち・そういち)

1965年4月生まれ。茅ヶ崎市出身。本学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、石川島播磨重工業に入社。ファンエンジンの開発に携わった後、宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構: JAXA)の宇宙飛行士募集に応募。1996年に宇宙飛行士候補者に選定され、米国NASAにて訓練開始。2005年7月26日、スペースシャトル「ディスカバリー号」の乗組員として宇宙へと飛び立った。15日間におたる宇宙飛行中には三度の船外活動を行った。

## 工学系研究科航空宇宙工学専攻 からのメッセージ

今にも雨が降り出しそうな空と、まさに対照的な秋晴れの野口聡一宇宙飛行士の爽やかな笑顔であった。工学系航空宇宙工学専攻の玄関前の中庭には、その勇姿を一目見ようと、学生、教職員と、黒山の人だかりができ盛大な祝福の拍手が起こった。

スペースシャトルSTS-114 “Return to Flight” ミッションのなか、見事、三度にわたる長時間宇宙遊泳の映像は、世界中の人々を興奮させ、鮮烈な記憶として我々の脳裏に残っている。一方で、無事に宇宙から地上へ帰還した直後は、脚の筋肉が弱った自覚があり、水平姿勢になると平衡感覚も鈍く、宇宙で過ごした時間を思い出したという。宇宙への旅立ちのため、厳しい肉体的訓練とマインドコントロールに充分励んできた屈強な野口宇宙飛行士にして、その様子である。我々はいつ楽に宇宙まで行けるようになるのであろうか？

野口宇宙飛行士は、初めての公募により、500倍の競争者から選出された。それ以前、我々専攻から土井隆雄宇宙飛行士が、97年11月、船外活動を行った。先輩土井さんと一緒に飛んだ専攻旗、そして野口さんが今回返還した大学応援旗の2枚が専攻玄関に並び、誰もが誇らしく嬉しい気分であった。国際宇宙ステーション建設は、計画実施が遅れ未だ始まったばかり、やはり我々専攻出身の女性宇宙飛行士・山崎（角野）直子さんが、先輩野口さんとアベック宇宙遊泳にて、日本の実験モジュールで作業する日もすぐにやってくることを期待しよう。

野口宇宙飛行士は、その挨拶の中、更に4人目が専攻から出て欲しいと学生達を激励した。宇宙飛行士に要求される適性は様々であり、天性の素質を別として、学生達の全員にその芽を伸ばす環境が提供されねばならない。そのことは宇宙飛行士に限らないのですよ、と辛抱強く夢を果たした野口宇宙飛行士にどうやら教えられたようである。宇宙飛行士ソウイチ、オメデトウ、そしてアリガトウ。

## 実況中継「到着から出発まで」

- 到着** 10月26日（水）午後、野口聡一さんが本部棟前に到着。さっそく総長室へ。
- 総長と歓談** 笑顔の小宮山総長は野口さんを総長室へ招き入れ、宇宙の話に花を咲かせました。
- 応援旗返還式** 宇宙に持っていった東大応援旗を返還。小宮山総長、平尾公彦工学系研究科長、航空宇宙工学専攻の河内啓二専攻長、長島利夫教授、河野通方新領域創成科学研究科教授、とともに記念撮影。
- 本部棟から徒歩で移動** 学生に取り囲まれながら、本郷キャンパス内を移動。サインを求める学生も。
- 御殿下を通過** グラウンドを横切際には練習中だった学生に取り囲まれ、握手攻めに。
- 安田講堂前** 安田講堂の前に到着すると、応援部によるエールが贈られました。
- 工学部広場へ** いよいよ工学部広場へ。取り囲む学生の数がどんどん増えていきます。
- 工学部広場に到着** 学生などでごった返す広場。野口さんは赤絨毯の上を歩いて中央に進みます。
- 野口さんあいさつ** 総長の言葉の後、記念すべき凱旋あいさつ。前ページに大きく紹介した言葉がこのときの野口さんのあいさつです。
- 専攻ロゴ返還 & 花束贈呈** 宇宙に持っていった航空宇宙工学専攻のロゴを返還。野口さんに花束が贈呈されました。とてもうれしそうな野口さん。
- 応援旗にサイン** 返還した応援旗に野口さんがサインをしてくれました。
- 野口さん、退場** 野口さん、押し寄せる学生達をかき分けながら、タクシーへ。大歓声の中、本郷キャンパスを後にしました。皆さん、大興奮のひとつときでした。



総務部

「業務改善提案」に係る表彰式開催

「業務改善提案」に係る表彰式が10月24日（月）15時30分より、本部棟12階大会議室で開催された。

業務改善提案は、本学の業務改善に関する具体的な提案を広く職員から募集し、今後の業務運営の合理化・効率化等に資することを目的として実施されたものであり、本年5月から6月にかけて募集が行われ、6月末までに個人・グループ合わせて120件の応募があった。

応募のあった提案については、濱田理事を本部長とする「業務改善プロジェクト推進本部」において審査が行われ、その結果下記のとおり、特選：個人2名・グループ1件、入選：個人3名・グループ1件、特別賞4名に対して表彰することになった。

表彰式では、小宮山総長・濱田理事・西尾理事・上杉理事・石黒監事・弦本企画調整役等の出席のもと、小宮山総長から総評が行われた後、表彰状と副賞が授与された。



小宮山総長から表彰状を受ける受賞者

○特選受賞者（個人2名・グループ1件）

<個人>

今橋大樹 医学部附属病院

「非常勤職員の雇用期間延長・更新手続きの簡素化について」

藪田 正 工学部

「非常勤職員の採用上申「更新回数等」について」

<グループ>

先端科学技術研究センター・庶務チーム

（代表者：松井潤一）

「短時間有期雇用職員への労働条件通知書の簡略化」

○入選受賞者（個人3名・グループ1件）

<個人>

日向知実治 柏地区事務部

「職員録のWEB化」

市原育代 財務部

「光熱水料及び電話料金の口座引き落としについて」

山崎由子 理学部

「東大職員宿舍の利用について」

<グループ>

教育学研究科・庶務係チーム（代表者：植木祐輔）

「東京大学職員名簿の電子化について」

○特別賞

高橋 登 工学部

富村こずえ 社会科学研究所

櫻井 明 財務部

基 快久 薬学部

表彰者の提案内容など業務改善提案に関する詳細は、[http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen6/index\\_j.html](http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen6/index_j.html)をご参照下さい。

なお、業務改善提案については、今後も定期的に募集します（現在11/25（金）を締切日にして募集中）が、期間内か否かにかかわらず、随時受け付けていますので、提案書をお送り下さい。

提出先：総務課業務改善グループ

E-mail：gyoumukaizen@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



「噴水」のコーナーにご意見を！！

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただくコーナーとして「噴水」が設けられています。

本学における教育・研究活動等に関する意見等をお寄せください。広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

[原稿の送付先]

東京大学総務部広報課

MAIL：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

[お問い合わせ]

TEL：03-3811-3393

内線：22031、82032

学生部

**第29回東京大学伊豆・戸田マラソン大会  
が開催される**

第29回東京大学伊豆・戸田マラソン大会が、10月30日（日）に開催されました。コースは、静岡県西伊豆の東京大学戸田寮（スポーツイア戸田）を基点とする42.195kmで、標高差500mの山道を走るため、通常に比べ難関ではありますが、日本有数の景勝地として知られる西伊豆の自然を体全体に感じて走ることができ、大会参加者からの評価も高いコースです。

昨年度は台風被害の影響のために開催は断念され、今年も開催が危ぶまれましたが地元のご理解とご協力もあり、マラソンコースの復旧も無事完了し、晴れて開催の運びとなりました。



スタート風景

当日は曇天ではありましたが気温もさして低くなく良い環境のもと、総勢66名（教職員11名、卒業生等15名を含む）が出走しました。結果、個人の部では、卒業生の大井寛巳（おおいひろみ）さんが2時間53分56秒のタイムで優勝し、第26回大会（平成13年度）からの4連覇を果たしました。また第2位には教養学部2年生の津釜大侑（つがまだいすけ）君、第3位には卒業生の来馬浩二（くるまこうじ）さんがそれぞれ入賞しました。また団体の部では、大学院生・卒業生混成チームである飛走会Bチームが優勝を飾りました。なおその他の出走者も好走し、55名がこの難コースを完走しました。



第1位の大井寛巳さん（4連覇）

今年はおりしも地元戸田村と沼津市との合併元年であり、戸田開寮以来97年続いている本学と戸田地区との関係も新たな時代に入りました。伊豆・戸田マラソンもこれまで地元の方々から激励・声援をいただき今日を迎えておりますが、来年は大会も30回を迎える節目の年となっており、地元沼津市戸田地区とも更に連携を深め大いに盛り上げていきたいと考えております。皆さんの奮ってのご参加をお待ちしております。

主な成績は以下のとおりです。

**第29回東京大学伊豆・戸田マラソン大会結果**

**【個人の部】 <東京大学総長杯>**

順位	氏名	時間	備考
第1位	大井 寛巳	2:53:56	卒業生等
第2位	津釜 大侑	3:20:47	教養・学部生
第3位	来馬 浩二	3:28:55	卒業生等
第4位	大島 義史	3:41:01	教養・学部生
第5位	橋本 佳也	3:43:44	薬・学部生
第6位	服部 周平	3:45:21	薬・学部生

**【団体の部】 <戸田村村長杯>**

（チーム全員の平均順位が少ないチーム）

順位	チーム名	平均順位	備考
第1位	飛走会B	6.3	大学院生・卒業生等
第2位	チーム アウトトップ①	13.6	教養・学部生
第3位	イケメンズ	16.5	薬・学部生

**【女子の部】 <戸田村体育協会会長杯>**

順位	氏名	時間	備考
第1位	高田 佳寿子	5:21:40	卒業生等

**【学内の部】 <東京大学運動会理事長杯>**

順位	氏名	時間	備考
第1位	津釜 大侑	3:20:47	教養・学部生

**【バカヤロー会長杯】**

（ゴールタイムの時間・分・秒を加算して最小の者）

順位	氏名	時間	備考
第1位	川口 友浩	5:02:00	農・大学院生

学生部

ハンドボール部関東リーグ2部昇格

10月9日(日)、日本体育大学健志台キャンパス体育館にて関東学生ハンドボールリーグ入替戦が行なわれ、秋季リーグ(男子3部)で6勝1敗の2位という結果を残し入替戦への出場権を獲得した本学運動会ハンドボール部が、秋季リーグ2部9位の明星大を36-21(前半18-10、後半18-11)で下し、18年ぶりの2部昇格を決めた。

今シーズンの東大は開幕から3連勝と勢いに乗り、リーグ4戦目で首位の大東文化大に僅差で敗れたもののその後の3戦もすべて白星で飾り、3部リーグ1位・2位に与えられる入替戦出場権を手にした。入替戦では立ち上がりから明星大を攻め立て前半20分で10点のリードを奪うと、その後もリードを広げ、圧勝で2部昇格を決めた。

今回の結果について、泉知行主将(工・3年)は「長年の目標であった2部昇格を果たせたのは、部長、監督、OBの先輩方、練習に参加していただいた方のご指導、ご支援のおかげです。昇格を機に、いっそう練習に励んでさらに上を目指します。」と、来季の活躍に意欲を見せていた。



応援部の熱い声援を受け、シュートする中村充選手(教養・2年)

今リーグの成績

- 第1戦 東京大学 25-16 明治学院大学
- 第2戦 東京大学 25-17 東京工業大学
- 第3戦 東京大学 25-6 駒澤大学
- 第4戦 東京大学 26-30 大東文化大学
- 第5戦 東京大学 31-15 獨協大学
- 第6戦 東京大学 29-20 一橋大学
- 第7戦 東京大学 29-16 成蹊大学
- 入替戦 東京大学 36-21 明星大学

大学院法学政治学研究科・法学部

平成18(2006)年度  
大学院法学政治学研究科修士課程  
入学試験結果

平成18(2006)年度大学院法学政治学研究科修士課程(A選抜・C選抜)の入学試験は、8月31日(水)~9月2日(金)に筆記試験が、10月3日(月)~10月5日(水)に口述試験がそれぞれ行われ、10月21日(金)に合格者(入学許可内定者)が発表された。

なお、志願者数、受験者数及び合格者数は以下のとおりである。

選抜の種類		A	C	計
志願者数	本学出身者	20	1	21
	他大学出身者	63	36	99
	計	83	37	120
受験者数	本学出身者	16	1	17
	他大学出身者	51	36	87
	計	67	37	104
合格者数	本学出身者	8	1	9
	他大学出身者	5	11	16
	計	13	12	25

- A: 筆記試験(外国語1科目、専門科目2科目)、口述試験、学業成績により選抜。
- B: 司法試験合格者を対象とする。筆記試験(外国語1科目)、口述試験、小論文、学業成績により選抜。合格発表は12月26日(月)
- C: 外国人特別選抜。筆記試験(外国語1科目、専門科目1科目)、口述試験、学業成績等により選抜。

大学院医学系研究科・医学部

医学部解剖体慰霊祭が行われる

10月26日(水)14時から、台東区谷中の天王寺において平成17年度医学部解剖体慰霊祭(解剖体数151体)が執り行われ、ご遺族約220名、医学部関係教職員約40名及びこの春教養学部より進学し、初めて解剖実習に臨んだ医学科3年の学生約110名の合計約370名が参列した。

本慰霊祭は、ご遺体を医学教育と医学の進歩発展のために捧げられた方々の御霊に感謝し、お慰めするため、ご遺族をはじめご縁故深い方々のご臨席を得て毎年実施されているものである。

住職以下7名の僧侶による読経が境内に流れた後、廣川学部長による祭文の朗読、焼香が行われ、ご遺族代表、教職員総代、来賓代表の焼香と続いた。学生代表として、

医学科3年の割沢高行さんの焼香に続き、参列者全員が焼香を行った。

本堂における行事を終えた後、千人塚において僧侶による読経が行われ、隣接する医学部納骨堂での焼香を行い散会した。



祭文を朗読する廣川学部長

## 大学院工学系研究科・工学部 ／大学院情報理工学系研究科 工学系研究科と情報理工学系研究科合同による 新規留学生懇談会が行われる

10月20日（木）18時より、工学部2号館展示室において、10月入学留学生の懇談会が行われた。両研究科合わせて約120名の新規留学生を迎えることができ、教職員合わせて約130名が参加する会となった。六川修一国際交流委員会副委員長の挨拶・乾杯の後、和やかな雰囲気の中で会食が始まり、無事に渡日できたこと、日本での新しい学究生活への抱負などを語りあう場となり楽しい秋の夕べとなった。



工学系国際交流委員会副委員長六川教授による挨拶



自己紹介を始める留学生たち

## 第2回東大水フォーラム開催 水研究のなかま集う

10月28日（金）13時～17時に本郷キャンパス工学部2号館セミナー室2で、第2回東大水フォーラムが開催された。新領域、農学、工学、公共政策などの広い分野から水に興味のある学内の教員、学生約40人が集まり、2件の特別講演、ポスターセッションに続いて総合討論を行った。

はじめの特別講演者はニュージーランド、カンタベリ―大学経営学部の J. F. Raffenspurger博士で、地下水の市場取引モデルに関する発表が行われた。ニュージーランドでは、農業用水として大量の地下水が汲み上げられており、地下水水位の低下と海水の浸入などの問題を引き起こしている。市場メカニズムを利用した地下水保全の方策として、地下水の大口利用者を対象に地下水揚水権の市場での売買を検討している事例が報告された。引き続き、本学工学系研究科社会基盤工学専攻の小池俊雄教授から、地球規模水循環をめぐる国際的動向について講演があり、本学として取り組むべき水循環研究課題等について活発な議論が展開された。

その後、休憩時間も兼ねてミニポスターセッションが行われた。大学院生を中心に15件のポスター発表があり、会場内ではお茶を片手に和やかな雰囲気で見聞が交換された。

総合討論では、本学の学生が中心となって運営しているAGS (Alliance for Global Sustainability) のUTSC (UT Student Community) で水ワーキンググループの代表の山本俊太郎君から、水WGの活動紹介と参加への呼びかけ、本学の水関連研究に対する期待が述べられた。その後、教員と学生が一体となり、今後の東大水フォーラムの活動に対する意見交換を行った。五月祭等での対談方式のシンポジウム開催や夕刻の気軽なビール&ミニ

ポスターセッション開催等のアイデアが出された。

会議終了後の懇親会では、自己紹介に続いて水に関わる異分野交流が行われた。

次回の水フォーラムは来年5月を予定している。詳細情報については下記のURLをご参照頂きたい。

<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/UTWF/>



フォーラム参加者の記念撮影

(参加した学生からの感想)

AGS-UTSC 水WG代表：公共政策大学院修士1年  
山本 俊太郎

普段学生は複数の教員と一緒に討議をするという機会がないため、今回の会合はとても有意義だった。総合討議で学生から教員への要望を述べさせて頂いた上に、討議の中で「何かを知りたいと考えて日々活動すること」の大切さを教えられた。さらに、「学生が自発的に行う研究活動を前向きに支援する」という先生方の言葉に非常に勇気付けられた。今後とも既成の分野を横断する水研究活動に精力的に取り組んでいきたいと思う。学部生・大学院生を問いません。水研究に関心のある方はホームページをご覧ください。

<http://ags.esc.u-tokyo.ac.jp/utsc/workgroup/water/>



小島副学部長による挨拶

会是有志の留学生も含めた準備作業（お好み焼きやおにぎりの調理等）の後、19時から開始された。小島副学部長の挨拶の後、乾杯・懇談と続き、会の後半では留学生や大学院学生による楽器演奏、国歌紹介等のパフォーマンスもあって大いに盛り上がり、和やかに進行した。

本歓迎会はこれからはじまる日本での留学生生活が、学業面および生活面を含めすべての新入居留学生にとって楽しくかつ有意義なものとなることを願い開催されたものであり、新入居留学生からは今後の留学生活に対する期待感や高揚感が感じられた。また、今後彼らのチューター業務にあたる大学院学生やその他の宿舎生との交流という面においても非常に有意義な会となった。



共同調理の様子

大学院総合文化研究科・教養学部  
**三鷹国際学生宿舎で秋季入居留学生歓迎会  
行われる**

10月9日（日）、三鷹国際学生宿舎共用棟において、10月から新たに宿舎へ入居した留学生の歓迎会が、院生会（留学生の宿舎生活をサポートするための、大学院学生によるチューター組織）の主催により行われた。当日は、新入居留学生35名をはじめ、大学院学生や有志の学部学生および既に入居している留学生等約100名が参加し、教養学部からも小島副学部長が出席した。



会食風景

## 大学院公共政策学教育部

### 谷垣禎一財務大臣が公共政策セミナーで講演

10月25日（火）、谷垣禎一財務大臣が、第15回公共政策セミナーにて「財政再建と政治の役割」をテーマに講演した。（司会：星浩（東京大学COE特任教授）、会場：法学部4号館8階大会議室）



満員となった会場

谷垣大臣は、多数の報道陣が詰めかける中、小宮山総長をはじめ、教授陣や約90名の大学院生を前に、公債残高が2005年には538兆円に達するなど国が危機的な財政事情にあることを示し、財政構造改革の必要性を訴えた。

具体的には、一般会計歳出の約4分の1を占める社会保障制度改革、消費税や所得税等の税制改革、国と地方の三位一体の改革の必要性について述べるとともに、痛みをお願いすることには変わりはないが、その不安を解きほぐし幅広い国民の理解を得るためには対話を積み重ねていかなくてはならない、と語った。



学生を前に語る谷垣禎一財務大臣

約1時間の講演の後、学生からは「選挙の場において消費税をどのように議論すべきか」、「自らが首相になった場合、靖国神社に参拝するか」、「所得再配分機能とこれまでの谷垣大臣の考え方の違いは何か」といった質問の他、憲法9条改正問題、地方分権問題、義務教育費国庫負担金問題、郵政民営化問題等について活発な質疑があった。

これらの問題について、大臣からは、政治家同士のやりとりなどこれまでの政治活動における具体的なエピソードもはさみつつ、率直な見解が述べられるとともに、学生の鋭い質問に慎重に言葉を選びながら対応する場面もみられた。

公共政策大学院は、より実務に即した教育を行うことをめざして、政策決定・実施の中核にある、あるいはいたことのある政治家、行政官、地方自治体の首長等の実務家から、直接その経験について聞く「公共政策セミナー」を昨年10月から設けた。このセミナーは、公共政策大学院、法学政治学研究科、経済学研究科の教職員や学生を対象とし、毎月1、2回開催している。これまでに、岡田克也民主党代表、久間章生自由民主党総務会長、堂本暁子千葉県知事、田原総一朗氏らを講師として迎えている。



終了間際まで活発な質疑応答が続いた

## 生産技術研究所

### 生産技術研究所で平成17年度外国人研究者・留学生との懇談会開催

10月7日（金）の16時半から、駒場IIキャンパスの交流のシンボルであるユニバーシティ広場において生産技術研究所の外国人研究者・留学生との懇談会が開催された。この催しは、生産技術研究所の外国人研究者・留学生及び教職員の相互理解と文化交流を深めることを目的として、昭和59年から毎年開催されている。



挨拶をする前田正史生産技術研究所長

ここ数年は、立食パーティ形式で行ってきたが、今年  
はユニバーシティ広場で縁日のような形式で行われ  
た。研究所の建物の目の前で行われたこともあり、秋雨  
模様にも関わらず大盛況であった。出席者は390人で、  
これは実に生産技術研究所構成員の約3割にあたる。

懇談会には「屋台」が7カ国から出店された。順不同  
で列挙すると、バングラデシュのカレー、タイのサゴボ  
ール（タピオカ・ミートボール）、スウェーデンのチェ  
ットブラー（ミートボール）、韓国・日本合同のフル  
ーツポンチ、中国の水餃子、フランスのクレープ、そして  
日本の流しそうめんと焼き鳥である。



フランスのクレープ屋台

どの屋台も大変好評で、それぞれに長蛇の列ができ、  
参加者は各国の料理に舌鼓をうちつつ交流を深めること  
ができた。終盤には小雨が降り出したが、ほとんどの参  
加者は帰らずに最後まで楽しんでた。懇談会の途中に  
各「屋台」の紹介などはさみ、1時間半で終了した。  
本来は2時間の予定であったが雨が次第に激しくなっ  
てきたこともあって早めの終了となったのが少し残念である。

今回出店して下さった方々は、生産技術研究所の外国  
人のための日本語教室や日本人職員のための英語教室な  
どで呼びかけ、集まっていたいただいたボランティアである。  
ボランティアのみなさんには、提供する料理の決定から  
特殊材料の調達、当日の料理、そして後片付けと大変お  
世話になった。また、事務方にも食材をどう調達するか  
などなど、大変な作業をこなしていただき感謝してい  
る。

## コミュニケーションセンターだより No.7

### ■お歳暮に御酒（うさき）を贈る！

秋もすっかり深まり、気づけば、お歳暮の準備などを始  
めなければいけない時期になってきました。まだ手配をさ  
れていない方や、例年とはちょっと違ったアイテムをお探  
しの方は「御酒」をお送りしてみたいはいかがでしょうか。  
メディアなどでもたびたび  
取り上げられている話題の  
泡盛、「御酒」。東京大学で  
しか買えないアイテムです  
ので、レアな一品として喜  
ばれること間違いありませ  
ん。コミュニケーションセン  
ターでは、地方への発送  
なども承っておりますので  
是非、ご利用ください。



### ■新アイテムが登場！

11月19日（土）に開催されるホームカミングデーに向け  
て新アイテムが登場します。東洋文化研究所・大木康先生  
の著書『馮夢龍『山歌』の研究—中国明代の通俗歌謡』より  
選び抜かれた歌を表裏に書した高座扇。表には原文、裏  
には日本語訳文を載せています。見た目は上品で真面目な  
扇子ですが、扇に記された歌をよく読むと、ユーモアに富  
んだ「性と情の世界」が浮かび上がってきます。ちょっと  
洒落のきいたお土産としてもご利用いただけます。



←表:原文 ↑裏:訳文



その他にも、UTマーク  
をあしらったキーホルダー  
や新型のペンなども登場し、  
コミュニケーションセン  
ターのラインナップはます  
ます充実！是非、お立ち  
寄りください。

(担当：渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30  
電話：03-5841-1039  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html)

11月は、日曜・祝日もOPENいたします。  
OPEN：11：00～17：30

## 研究協力部

### イエール大学リチャード・レビン学長 特別講演開催

#### シンポジウム・講演会

イエール大学学長として大規模なキャンパス改築や地域連携、研究費の拡大を手がけるとともに、経済学の専門家としても有名なリチャード・レビン氏が、経済成長における大学の役割について講演します。

講演は英語ですが、同時通訳も利用可能です。奮ってご参加ください。なお、参加申込みは不要です。



イエール大学リチャード・レビン学長

演題：“The University as an Engine of Economic Growth”

日時：11月29日（火）14:30～15:15

場所：理学部1号館小柴ホール

主催：東京大学

※同時通訳受信機は、先着170名様までご利用できます。

お問い合わせ先：研究協力部国際課

TEL：03-5841-2093 内線（22093）

FAX：03-5689-7344

e-mail：cs@adm.u-tokyo.ac.jp

### シンポジウム「第二次地方分権改革への展望」

#### シンポジウム・講演会

21世紀COEプログラム「先進国における《政策システム》の創出」と法学政治学研究科附属比較法政国際センターは、同研究科寄付講座（朝日新聞社）「政治とマスメディア」及び東京大学公共政策大学院との共催によ

り以下の要領でシンポジウムを開催します。参加費は無料です。皆様のご参加をお待ちしております。

#### 地方分権シンポジウム「第二次地方分権改革への展望」

日時：11月26日（土）10:00～17:00

場所：川崎日航ホテル（JR川崎駅徒歩1分）

#### セッションⅠ 10:00～12:00

第一次地方分権改革を検証する

若手研究者・実務家による地方分権推進委員会関係資料を活用した研究発表  
及び電子化資料集のデモンストレーション

#### セッションⅡ 13:00～14:30

鼎談「韓日の分権改革に参画して」

呉 在一（韓国全南大学校教授）

大森 彌（東京大学名誉教授）

森田 朗（大学院公共政策学連携研究部  
教育部部長）

#### セッションⅢ 14:45～17:00

パネルディスカッション「分権改革の現在」

A 三位一体の地方財政改革－法律学・経済学・行政学の視点から

櫻井敬子（学習院大学教授）

沼尾波子（日本大学助教授）

土居丈朗（慶應義塾大学助教授）

金井利之（東京大学助教授・兼司会）

B 韓日の分権改革－その動向／国・自治体間の紛争調整制度

姜 再鎬（釜山大学校副教授）

李 相鎮（韓国国務調整室）

伊藤正次（首都大学東京准教授）

島村 健（神戸大学助教授）

司会：田口一博（本COE特任講師）

後援：川崎市、自治体学会

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.j.u-tokyo.ac.jp/coeps/>

参加申し込み：氏名・希望セッションをメールにてお送り下さい。先着300名まで受けつけます。

参加申し込み・問い合わせ先：info\_coeps@j.u-tokyo.ac.jp

大学院総合文化研究科・教養学部

## 教養学部で第106回オルガン演奏会開催

### お知らせ

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催します。このたびは、アメリカの世界的なオルガニストであるダゴスティーノ氏をお迎えし、ヨーロッパと日本のオルガン曲の独奏と、弦楽器との合奏をお楽しみいただきます。どうぞご期待ください。

日 時 12月1日(木) 18:30開演(18:00開場)

場 所 教養学部900番教室(講堂)

曲 目

J・S・バッハ

協奏曲 ト長調 (BWV 592)

18のコラール集より

「いざ来れ、異教徒の救い主よ」(BWV 659)

W・A・モーツァルト

オルガンと弦楽のためのソナタ ハ長調 (KV 328)

オルガンと弦楽のためのソナタ ハ長調 (KV 336)

A・ドヴォルザーク

バガテル (op. 47)

F・リスト

バッハの名による前奏曲とフーガ

演 奏 グレゴリー・ダゴスティーノ (オルガン)

江副麻琴、長崎紗矢 (ヴァイオリン)

磯野太佑 (チェロ)

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>

大学院総合文化研究科・教養学部

## 「教養学部報」第487(11月2日)号の発行 —教員による、学生のための学内新聞—

### お知らせ

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第487号の内容は以下のとおりです。

和田 純夫：〈学び方〉新シリーズ

物理学の学び方本との出会いを大切に

渡邊雄一郎：駒場地区オープンキャンパス2005を振り返って

森 政稔：さよなら、まみちゃん

村田 昌之：セミインタクト細胞アッセイ

—「見ること」で終わるのではなく

「見ること」から始める

〈本の棚〉

原 和之：浦雅春著『チェーホフ』

〈時に沿って〉

早川真一郎：駒場、今昔

広瀬 友紀：半年を過ごして

伊藤 博一：東大生の投能力を向上させる

星野 崇宏：教養教育の申し子？

石田 淳：豁然開朗？

柳原 大：巧みの科学を求めて

大学院教育学研究科・教育学部

## 教育測定・カリキュラム開発 (ベネッセコーポレーション) 講座 公開講演会

### シンポジウム・講演会

大学院教育学研究科教育測定・カリキュラム開発(ベネッセコーポレーション)講座では、アメリカ最大のテスト開発機関であるETS元副所長H. ブラウン氏を迎え、下記の要領にて公開講演会を開催します。

ご関心のある方々のご参加をお待ちしています。

日時 12月12日(月)

講演1：12:30~14:30

講演2：15:00~16:30

場所 理学部1号館 小柴ホール

講師 Dr. Henry I. Braun

(米ETS《Educational Testing Service》

研究開発部門政府政治任用職)

### 講演タイトル・概要

#### 【講演1】「学力向上と教師の指導力の効果検証」

概要：アメリカやヨーロッパでは生徒の学業成果を教師評価の基礎とすることへの関心が高まっている。これは、生徒の数年間にわたる成長の履歴を集めることで

教師の効果の比較判断が可能、という考えに基づくものだが、そこには多くの理念的、実践的、技術的に興味深い課題がある。

**【講演2】「NAEP（全米学力調査）における州別成績のマッピングのための尺度定義について」**

**概要：**全米各州の学力テストの規準をNAEP（the National Assessment of Educational Progress：全米学力調査）の尺度にどのように位置づけることができるかの研究を行ってきた。これにより州ごとに定められている到達基準を厳密に比較することが可能になった。

<参考> Dr. Henry I. Braun プロフィール  
米ETS（Educational Testing Service）研究開発部門

政府政治任用職。元副所長（1990～1999）。統計学の分野でプリンストン大助教授職を務めたのち、1979年にETSへ。1990年代、紙筆検査からCBT（コンピュータ）へのテスト形式の転換期にあって、その変革を指揮し、理論的礎を築く。テストデータの分析・評価を行う人工知能データベースの構築などを専門とする。

- ※ 17:00より懇親会を開催します。  
（参加任意：参加費3000円）。
- ※ ご参加の場合、①お名前、②ご所属、③参加する講演名（「講演1」「講演2」）、④懇親会参加の有無、を記しメール（sokutei@p.u-tokyo.ac.jp）にてお申し込みください。
- ※ 詳しい情報については、講座HPをご覧ください。  
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/>

**事務連絡**

**人事異動（教員）**

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退職）			
17.10.31	重松 宏	辞職	医学部助教授
（採用）			
17.10.16	引地 進	大学院新領域創成科学研究科助教授	特許庁特許審査第三部審査官 （大学院新領域創成科学研究科寄付講座教員 （客員助教授））
17.11.1	河西春郎	大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター教授	大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所細胞器官研究系教授
//	龍原 哲	大学院農学生命科学研究科助教授	新潟大学自然科学系助教授
//	古井戸宏通	大学院農学生命科学研究科助教授	独立行政法人森林総合研究所東北支所森林資源管理研究グループ長
//	早戸良成	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助教授	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所物理第三研究系助手
（配置換）			
17.11.1	澤田康文	大学院情報学環教授	大学院薬学系研究科教授
//	佐藤洋一	大学院情報学環助教授	生産技術研究所附属戦略情報融合国際研究センター助教授
//	枝川圭一	生産技術研究所附属サステイナブル材料国際研究センター助教授	生産技術研究所助教授
（職務復帰）			
17.10.2	佐藤 仁	大学院新領域創成科学研究科助教授	タイ天然資源環境省天然資源環境政策計画局

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。  
東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

## 弓術部

駒場キャンパスの正門から考えると最奥部の、第2グラウンドとラグビー場の間の細い道(?)を抜けたところにある浩然堂。本郷の赤門に入ってまっすぐ歩き、医学部の手前で左手に折れてすぐ、実は三四郎池にとっても近い育徳堂(五月祭での「鳴弦の儀」がここで行われます)。どちらも木々に囲まれた道場で、弓術部は活動しています。

試合のシーズンは主に春と秋で、春は新人戦や国公立大会、練習試合がほぼ毎週あります。秋シーズンのメインはリーグ戦です。今年度は2部復帰こそ果たせなかったものの、男子部・女子部ともにブロック首位という好成績をおさめました。その他にも東北大学や京都大学との定期戦、七大学戦などがあります。

またシーズンとシーズンの間には強化練・合宿が行われます。ふだんは本郷と駒場に分かれて練習していますが、強化練中は全員が本郷道場で練習します。強化練の後、夏は長野、春は千葉での合宿に行きます。

練習ばかりのように書いてきましたが、折々にイベントがあり、部員どうしの親睦を深めたり、また定期戦を通じて他大学の人と知り合う機会もあり、部活動ならではの楽しさがあります。試合のときの皆との一体感、「チーム一丸となって」という言葉をただの表象としてではなく実感する瞬間、それは得られればうれしいものです。

うまくいかなくても、一度馴染めばなかなか投げ出すことができない魅力が弓にはあります。多かれ少なかれそんな思いで、夏の蚊の多さと、冬の寒さに耐えながら、弓術部は日々の練習に励んでいます。

(弓術部 丸山 緑)



## ★★DATA★★

創立:1886年

人数:男子62名 女子21名

練習場所:本郷育徳堂、駒場浩然堂

練習日:毎日

今年の成績:

東京地区国公立大学体育大会 男女ともに優勝  
(女子は連覇)

国立七大学総合体育大会 男子優勝

東京都リーグ 男女ともに3部優勝

弓術部綱領:

「射は剛健典雅を旨とし精神の修養と肉体の練磨とを以って目的とす」

HP:<http://www.kyujyutubu.com/>

## アメリカンフットボール部

## ● 16年ぶりの2部降格

私たちアメリカンフットボール部は、昨年度まで関東の1部リーグにいました。法政大学などアメフト推薦の選手が多くいる大学を相手に、日本一を目指して活動していました。しかし、昨年度の成績は1部Bブロック7位、最下位のまま2部リーグとの入替戦に出場。2004年12月12日、筑波大学を相手に26-15で敗退し、16年ぶりに2部降格となってしまったのです。



## ● 「1部昇格」と「強いWARRIORSの復活」

今年の目標は「1部昇格」と「強いWARRIORSの復活」。1996年と2001年にプレーオフに出場した経験のある私たちにとって2部在籍という事実は受け入れがたいものでした。しかし、2002年から3年連続で入替戦に出場し、チームとして低迷期にあったこともまた事実として認識していたところでした。再び日本一を目指せるチームとなるよう、今年はチーム一丸となってこの目標に向かって邁進しました。まず、その成果が現れたのは6月の京大戦です。1995年の勝利以来久しぶりに、関西強豪の京都大学に15-9で勝利するという快挙を成し遂げました。

今年はリーグ再編の節目にあたるため、2部1位は1部に自動昇格できることになっております。リーグ戦は計7試合ありますが、現在11月2日時点、5戦全勝でリーグ戦を2部1位で勝ち進んでおります。11月13日の対桜美林大学戦に勝利すれば、1部昇格が確定いたします。1部昇格の吉報を皆様にお伝えできますよう日々練習に励んでおりますので、今後ともご声援いただけますようよろしくお願いいたします。(アメリカンフットボール部 山口 藍)

## ★★DATA★★

人数:男子100名、女子22名

練習場所:駒場第1グラウンド、本郷御殿下グラウンド

年間予定:

6月 京大戦

9月~11月 関東大学アメリカンフットボールリーグ戦

今年の成績:

9月3日 V S 武蔵大学 42-7

9月18日 V S 東京農業大学 19-0

10月1日 V S 武蔵工業大学 27-9

10月16日 V S 防衛大学校 47-7

10月29日 V S 東京学芸大学 39-7

今後の試合予定:

11月13日(日) V S 桜美林大学

場所:アミノバイタルフィールド 時間:16:00~

11月27日(日) V S 新潟大学

場所:アミノバイタルフィールド 時間:16:00~

HP:<http://tokyowarriors.com/>

# EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
社研 人材ビジネス研究寄付研究部門シンポジウム「ヘルパーの能力開発とサービス提供責任者の役割-訪問介護サービス業の人材マネジメント-」	11月16日(水) 14:30~	学士会分館	社会科学研究所 http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/jinzai/1116.htm e-mail: hrm@iss.u-tokyo.ac.jp
史料展示会「東京大学の国宝・重文名品展」 ※1321号参照	11月18日(金) 19日(土)	史料編纂所二階	史料編纂所 03-5841-5997
第4回東京大学ホームカミングデイ ※1321号参照	11月19日(土)	本郷キャンパス 及び駒場キャンパス	総務部渉外グループ 03-5841-1216 内線21216 http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/hcd.html
留学生のための地震防災セミナー(日本語コース)	11月19日(土)	地震研究所	地震研究所 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/yamaoka/eqseminar/
「細胞周期制御」国際シンポジウム	11月21日(月) 22日(火)	愛知厚生年金会館 (名古屋市中千種区池下)	大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 http://www.molbiol.m.u-tokyo.ac.jp/h17symposium.html 岡山博人 教授 03-5689-0876
附属図書館特別展示記念講演会 「競争社会の開幕と東大黎明期の学生たち」 ※1322号参照	11月24日(木) 18:00~	講演会: 総合図書館大会議室	附属図書館情報サービス課専門員 03-5841-2640 (内線22640)
国際研究集会 ティツィングとシーボルト	11月25日(金) 13:00~	総合研究博物館ミュージズホール	史料編纂所 http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html
木質バイオマス利用の高度化に向けた先端バイオサイエンス	11月25日(金) 13:30~	弥生講堂一条ホール	大学院農学生命科学研究科 03-5841-5255 http://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/bioseminar.html
新しい医工の連携を求めて —東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター 開設シンポジウム—	11月25日(金) 13:30~	医学部附属病院 入院棟A15階 大会議室	大学院医学系研究科疾患生命工学センター シンポジウム実行委員会事務局 03-5841-3014 http://www.cdbim.m.u-tokyo.ac.jp/
シンポジウム「第二次地方分権改革への展望」 ※11ページ参照	11月26日(土) 10:00~	川崎日航ホテル (JR川崎駅徒歩1分)	21世紀COEプログラム 「先進国における《政策システム》の創出」事務局 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/coeps/
21世紀COEシンポジウム「ケアと自己決定」	11月26日(土) 13:00~	医学部大講堂	大学院人文社会系研究科・文学部 21世紀COEプログラム「死生学の構築」応用倫理教育プログラム 03-5841-3736 http://www.l.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/report.cgi?mode=2&id=39
第29回農学部セミナー 「どこまで食糧増産は可能か?」	11月26日(土) 13:30~	弥生講堂一条ホール	農学系総務課 広報情報処理係 03-5841-5484、8179 E-mail: koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp http://www.a.u-tokyo.ac.jp/seminar/seminar.html
イェール大学 リチャード・レビン学長特別講演 ※11ページ参照	11月29日(火) 14:30~	理学部1号館小柴ホール	研究協力部国際課 03-5841-2093 内線(22093)
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COE ものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月~3月	三菱ビルコンファレンススクエア アムプラス(東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座「高校生のための金曜特別講座」(冬学期) ※1319号参照	10月14日(金) ~2月10日(金)	教養学部11号館2階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日(土) ~4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
展示会「form_raum_idee—デッサウのパウハウスとハレのブルク・ギービェンシュタイン美術デザイン大学、世界の現代デザインを切り開いた二つの美学校—」 ※1321号参照	10月29日(土) ~12月9日(金)	駒場博物館	大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 03-5454-6139
医学序論連続講座「医の原点」	11月1日(火) ~12月13日(火) 各火曜日	医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂	医学部教務係 03-5841-3308 http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
附属図書館特別展示「東大黎明期の学生たち—民約論と進化論のはざま—」 ※1322号参照	11月16日(水) ~11月30日(水)	総合図書館3階ホール	附属図書館情報サービス課専門員 03-5841-2640 (内線22640)
第32回生研イブニングセミナー 「環境に優しく、安心・安全で、快適な交通の未来に向けて」	11月25日(金) ~1月27日(金) 各金曜日	生産技術研究所 駒場リサーチ キャンパス 総合研究実験棟 (An棟)3階大会議室	生産技術研究所 総務課広報企画係 03-5452-6017~8 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展示「アフリカの骨、縄文の骨—遥かラミダスを臨む」展	11月26日(土) ~4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
公開講座「標本は語る—自然の体系をめざして」 ※1322号参照	11月28日(月) ~12月2日(金)	総合研究博物館内 講義室	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp

## 「それなりに役に立つ」か 「日本の恥」か

外国のホテルに泊まると、部屋の入り口の内側に、火災発生時などの注意が外国語に混じって日本語で書かれていることがある。活字がないため手書きによる不揃いな字で、しかも「てにをは」に誤りのある、たどたどしい日本語なのだが、現地語や英語版の意味が取りにくい時など、それなりに役に立つ。

日本でも最近、駅や電車の中などで外国語の表示やアナウンスを見聞きすることが多くなった。しかし、「てにをは」のおかしなものが少なくない。例えば、電車のドアの上のLED表示板では、「次は〇〇」（〇〇は駅名）、「△△線は乗り換え」（△△は路線名）に対する英語表示が「Next 〇〇」、「Change △△ Line」となっているものが多い。これでは「次の〇〇」、「△△線を変えよ」である。

「てにをは」が多少誤っていても意味は取れることが多いので、「無いよりはマシ」、「それなりに役に立つ」という意見もあるかもしれないが、世界的に見てマイナーな日本語の「てにをは」を誤るのであればともかく、公用語として最もよく使われている英語の「てにをは」の誤



った表示を公共の目にさらすのは、やはり「日本の恥」と思ふべきであろう。

アナウンスにはもっとひどい例もある。例えば、「〇〇の次は、□□に停まります」（〇〇、□□は駅名）に対して「After stopping 〇〇, will be □□.」では、主語がないので文にならない。原稿を渡されたネイティブの人が読み上げるのに困ったのではないかと思われ、口調がやや不自然である。「After stopping 〇〇, we'll be □□.」と言っているように聞こえなくはないが、そうだとすると「〇〇を止めた後、我々は□□になるであろう。」であってやはりおかしい。ちなみにドアの上のLED表示板は「The stop after 〇〇, will be □□.」となっており、アナウンスよりはだいぶマシであるが、カンマは不要だし、will beよりisの方が適切だと思う。

と偉そうに書いてきたが、私も日常英会話は不得意である。外国人と話していて話題が身の回りのことになると、語彙や言い回しがわからずに、話に詰まってしまう。だからこそ、公共の場に提示される外国語は必ず正しい言い回しにしてもらって、それを見聞きしているだけで自然に覚えることができるようにしてほしい、と思うのはムシのいい願いだろうか。

相田 仁（大学院新領域創成科学研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

〔訂正〕

「学内広報」において、一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

No.1322 (2005.10.26)

14ページ右段下から9行目

（誤）平成17年1月28日（土） → （正）平成18年1月28日（土）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1323 2005年11月9日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393  
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
ホームページ [http://www.u-tokyo.ac.jp/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html)



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO